

名 称	水中環境実験施設		
設置場所	水中環境実験施設		
管理部門	技術推進本部	先端技術チーム	
完成年月	昭和53年11月		
制作会社名	大阪電暖ほか建設共同企業体		
勘定区分			
概 要	<p>実験水槽A(内径20m×深さ20m)、実験水槽B(長さ40m×幅20m×深さ3m)の施設を使用し、沈埋トンネルの接合方法、底面への砂吹込み充填方法および海底盛土の軟弱土の置換え工法、盛土の締め固め方法等の研究を行っております。</p> <p>また、建設機械の水中作業試験および自動運転試験も行っております。</p>		
使用例	<p>実験水槽(L)10m×(W)7m×(H)5mで砂吹込み等の実験を行ってきたが、広い面積、水深の影響などの調査が出来ない。また、大口径掘削機械等は海上実験を実施してきたが、試験条件等の関係で十分な調査が出来ない等の理由により、実験水槽Aは深海用で深い程望ましいが、建設工事で最も多い水深と施設建設の投資効率を考慮して20mとした。実験水槽Bは建設機械が完全に水没出来る深さ3mとし水中作動実験が可能な広さとした。</p> <p>具体的な実験例としては</p> <p>実験水槽Aを使用した例として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沈埋トンネルの接合方法、底面への砂吹込み、充填機の充填工法、沈設地点の整形等に関する実験</li> <li>・海底盛土施工法に関して軟弱土の置換え、水中締め固め等の実験</li> <li>・水中基礎工法として大口径掘削機によるウエル沈設工法の実験および掘削土砂の吹上方法の実験</li> <li>・海中汚濁防止掘削工法の開発実験</li> </ul> <p>実験水槽Bを使用した例として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浅海での水中作業用建設機械の性能試験</li> </ul> <p>また、貸出し等においては、曝気装置を用いた浄化効果実験を行っています。</p>		
使用電力および 消耗品等	使用電力	暖機運転時	約 0 kw
		運転時	約 163 kw